

平成 27 年 1 月 14 日

南の風 106

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

オールジャパンについて書きます。

結果を簡単に紹介します。男女の準決勝と決勝の結果です。

《男子準決勝》	トヨタ自動車アルバルク東京	78	VS	80	広島ドラゴンフライズ
	東芝ブレイブサンダース神奈川	84	VS	94	日立サンロッカーズ東京
《男子決勝》	広島ドラゴンフライズ	66	VS	81	日立サンロッカーズ東京
《女子準決勝》	JX-ENEOS サンフラワーズ	72	VS	69	富士通レッドウェーブ
	トヨタ自動車アンテロープス	61	VS	75	デンソーアイリス
《女子決勝》	JX-ENEOS サンフラワーズ	66	VS	53	デンソーアイリス

男子は日立サンロッカーズ東京が初優勝でした。オールジャパンは3回戦からの出場でしたが、危なげなく決勝まで勝ち上がりました。決勝は、初出場で決勝まで進出した広島ドラゴンフライズが注目の的でした。ヘッドコーチの佐古賢一氏は、皆様ご存知の通り全日本代表の名ガードとして、長年活躍をしました。そして、彼は深谷ミニバス（横浜西部連盟）出身です。またファイ・パブ・ムール選手は横浜ビー・コルセアーズに在籍したこともあるセネガル出身の選手です。永田台ビーバーズにクリニックで来ていただいたこともあります。そして、竹内公輔選手はサンロッカーズの竹内譲次選手とは双子の兄弟です。対決も楽しみでした。一方の日立サンロッカーズ東京には、満原優樹選手がいます。満原選手は、星川ミニバス（横浜中部連盟）出身です。

話題満載の決勝戦でした。ゲームは、立ち上がりからインサイドをしっかりと攻めたサンロッカーズがリードを保ちます。ドラゴンフライズは、竹内（公）選手のインサイド、パブ・ムール選手の連続ショットで追いかけてますが、サンロッカーズの満原選手の3Pなどで点差を縮めることができませんでした。結局、15点差で日立サンロッカーズ東京がうれしい初優勝を飾りました。

女子の決勝は、2連覇が懸かるJXと初優勝が懸かるデンソーとの戦いでした。JXは怪我から復帰した吉田亜沙美選手、渡嘉敷来夢選手、間宮佑佳選手が注目です。一方デンソーは、エース高田真希選手、そして今年大ブレイクした、伊集南選手（シューター）、高田汐織選手（シューター）の活躍が期待されます。

前半は、デンソーの伊集、高田（汐）選手の3Pやドライブが決まりリードする。また、高田真希選手の落ち着いたポストシュートでリードを保つ。一方、JXは宮澤選手が連続得点するが、シュートがリングに嫌われリズムに乗れず、ロースコアの展開となる。終盤になってようやく、渡嘉敷選手、間宮選手のゴール下が決まり巻き返す。デンソーの1ゴールリードで前半を折り返す。

JXはこの大会、前半にイージーシュートミスが目立ちました。後半の戦いの様子は次号にします。

